



2024年8月9日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア ズ ー ム
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 菅 田 洋 司
(コード番号：3496 東証グロース)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 馬 場 涼 平
(TEL. 03-5365-1235)

2024年9月期第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(公認会計士等による期中レビューの完了)

当社は、2024年7月31日に2024年9月期第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)を開示いたしましたが、四半期連結財務諸表について、公認会計士等による期中レビューが完了しましたのでお知らせいたします。

なお、2024年7月31日に発表した四半期連結財務諸表について変更はありません。

以上



2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社アズーム 上場取引所 東
コード番号 3496 URL <https://azoom.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菅田洋司
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 馬場涼平 TEL 03-5365-1235
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第3四半期の連結業績（2023年10月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	7,568	26.3	1,254	36.9	1,253	37.1	855	36.6
2023年9月期第3四半期	5,990	28.6	916	41.4	914	41.9	626	41.4

(注) 包括利益 2024年9月期第3四半期 852百万円 (36.3%) 2023年9月期第3四半期 625百万円 (39.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	144.90	142.82
2023年9月期第3四半期	106.38	104.66

(注) 当社は、2022年12月27日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2024年9月期第3四半期	4,817	3,315	3,315	3,315	68.4
2023年9月期	3,983	2,575	2,575	2,575	64.1

(参考) 自己資本 2024年9月期第3四半期 3,294百万円 2023年9月期 2,553百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	25.00	25.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2 当社は2022年12月27日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年9月期の期末配当金及び2024年9月期（予想）の1株当たりの配当金は、当該株式分割を考慮した金額を記載しております。

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	20.9	1,800	40.4	1,790	39.9	1,160	32.0	196.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期3Q	6,026,800株	2023年9月期	6,017,600株
② 期末自己株式数	2024年9月期3Q	118,276株	2023年9月期	118,276株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期3Q	5,903,061株	2023年9月期3Q	5,888,357株

- (注) 当社は、2022年12月27日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

[期中レビュー報告書]

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されております。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等が当社グループに与える影響は不透明であり、今後も引き続き注視し、適切な対応を講じてまいります。

当社グループの経営環境としましては、遊休資産活用事業に主として関連する駐車場業界において、インターネットを活用した月極駐車場の紹介依頼需要は増加しており、オフィスビルや分譲マンション等における駐車場空き区画の収益化に対する需要も依然として拡大しております。さらに、従来は店舗型の不動産仲介業者にて月極駐車場を探していたユーザーが、当社が運営するポータルサイトを通じてインターネット経由で流入するケースがより増えてきております。また、サービスが多様化し、インターネットを活用した駐車場状況を提供するシステム等が普及してきております。

ビジュアライゼーション事業においては、経済活動の正常化にともない、当社グループが提供する不動産画像に対する需要は回復してきております。さらに非対面での営業ツールとして、VR技術を用いたバーチャルショップの開発・制作を行い、事業規模を拡大しております。

このような経営環境のもと将来的な収益力の強化を目的として、引き続き既存社員の育成や新規の営業人員の獲得に努め、新規案件の獲得のための積極的なアプローチを行えるような営業体制の強化に注力するとともに、ベトナム子会社 (AZOOM VIETNAM INC. 及びCGWORKS VIETNAM INC.) でのシステム開発・グラフィックデータ制作の体制を強化するための投資やリモート環境等の制約にかかわらず営業活動を継続できるようIT面での新たな技術の開発を引き続き行ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,568,321千円 (前年同期比26.3%増)、営業利益は1,254,919千円 (前年同期比36.9%増)、経常利益は1,253,526千円 (前年同期比37.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は855,373千円 (前年同期比36.6%増) となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① 遊休資産活用事業

遊休資産活用事業セグメントは、当社がインターネット上で運営する月極駐車場のポータルサイト「CarParking」(以下、「カーパーキング」といいます)を経由して、駐車場の紹介を行う「月極駐車場紹介サービス」と、駐車場オーナーから空き駐車場を当社がマスターリース(一括借り上げ)し、月極駐車場としてユーザーにサブリース(貸し付け)を行う「月極駐車場サブリースサービス」を中心として事業を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、カーパーキングを通じたインターネット経由でのユーザーの流入増加を背景に、引き続き既存社員の営業力強化やITを活用した業務効率化の推進に努め、マスターリース台数及びサブリース台数のいずれも堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間における駐車場間合わせ件数は215,208件となり、当第3四半期連結会計期間末におけるマスターリース台数(受託台数)は26,405台、サブリース台数(稼働台数)は24,277台となりました。あわせて、株式会社鉄壁が提供する月極駐車場特化型の賃料保証サービスの契約件数も堅調に推移しております。また、顧客による貸し会議室やジム、スタジオ等のレンタルスペースの運営をサポートするWEB予約システム「スマート空間予約」においては、カスタマイズ対応案件のニーズが高まっており、地方公共団体への導入、2024年3月に旅客フェリー予約管理システム「スマートフェリー予約」を開発しサービス提供を開始いたしました。また、前連結会計年度より、空き家問題に対する取り組みの一環として中古住宅を取得し、収益最大化を模索しながら事業に取り組んでおります。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,432,944千円(前年同期比27.4%増)、セグメント利益は1,268,126千円(前年同期比39.1%増)となりました。

② ビジュアライゼーション事業

ビジュアライゼーション事業セグメントは、不動産の可能性をより視覚的に伝えることを可能にするため、3DCG技術等の専門的なスキルを活用し、建物や空間の利用方法及び完成イメージをグラフィックデータとして制作し、販売するとともに、VR技術を用いて顧客の要望に応じた空間デザインのサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間においては、既存社員の技術力や営業力の強化に注力しつつ、多様な営業提案が可能となるように事業基盤の拡大に努めました。前年同期よりグラフィックデータ作成の発注元であるディスプレイ業者の景気回復を背景に、3DCGパースの受注は増加いたしました。また、VR案件の受注は減少いたしました。また、2024年3月にラフスケッチ・写真・CGパースなどの画像をアップロードし、スタイルを選択するだけで質の高いデザイン案を短時間でレンダリングする生成AIによるレンダリングサービス「MyRenderer(マイレンダラー)」の開発に注力し、サービス提供を開始いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は146,376千円(前年同期比6.0%減)、セグメント損失は8,653千円(前年同期はセグメント利益4,822千円)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は3,736,495千円となり、前連結会計年度末に比べて679,371千円増加しております。その主な要因は、業績が堅調に推移したことに伴い現金及び預金が419,306千円増加したこと、月極駐車場の受託台数の増加に伴い前払費用が107,501千円増加したこと、ならびに、中古住宅の仕入れに伴い販売用不動産が107,997千円増加したことによるものであります。固定資産は1,081,442千円となり、前連結会計年度末に比べて155,533千円増加となっております。以上の結果、総資産は前連結会計年度末に比べて834,905千円増加し、4,817,938千円となっております。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,103,883千円となり、前連結会計年度末に比べて51,304千円増加しております。その主な要因は、稼働台数の増加に伴い月極駐車場サブリースユーザーからの前受収益が57,668千円増加したものであることによるものであります。固定負債は398,708千円となり、前連結会計年度末に比べて43,772千円増加しております。以上の結果、負債合計は前連結会計年度末と比べて95,077千円増加し、1,502,591千円となっております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,315,346千円となり、前連結会計年度末に比べて739,827千円増加しております。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を855,373千円計上したことにより利益剰余金が同額増加したことによるものであり、自己資本比率は68.4%（前連結会計年度末は64.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の連結業績予想につきましては、2023年11月10日の「2023年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,095,936	2,515,242
売掛金	106,638	127,976
仕掛品	1,548	20,221
販売用不動産	288,995	396,993
前払費用	535,586	643,087
その他	38,624	49,741
貸倒引当金	△10,205	△16,768
流動資産合計	3,057,123	3,736,495
固定資産		
有形固定資産	134,860	122,547
無形固定資産		
のれん	47,225	41,321
その他	249,740	356,828
無形固定資産合計	296,965	398,149
投資その他の資産		
差入保証金	200,168	239,451
その他	307,867	338,471
貸倒引当金	△13,952	△17,178
投資その他の資産合計	494,083	560,745
固定資産合計	925,908	1,081,442
資産合計	3,983,032	4,817,938
負債の部		
流動負債		
未払金	117,665	147,648
未払法人税等	285,233	192,729
前受収益	270,393	328,061
契約負債	95,841	108,605
賞与引当金	57,667	34,468
1年内返済予定の長期借入金	43,759	41,024
その他	182,018	251,345
流動負債合計	1,052,578	1,103,883
固定負債		
長期借入金	58,029	81,945
預り保証金	233,496	246,868
退職給付に係る負債	10,800	17,100
資産除去債務	52,610	52,794
固定負債合計	354,936	398,708
負債合計	1,407,514	1,502,591
純資産の部		
株主資本		
資本金	63,804	66,543
資本剰余金	789,520	792,259
利益剰余金	1,874,058	2,611,445
自己株式	△180,516	△180,516
株主資本合計	2,546,866	3,289,732
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,494	5,245
その他の包括利益累計額合計	6,494	5,245
新株予約権	19,040	19,213
非支配株主持分	3,116	1,154
純資産合計	2,575,518	3,315,346
負債純資産合計	3,983,032	4,817,938

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	5,990,454	7,568,321
売上原価	3,450,250	4,405,928
売上総利益	2,540,203	3,162,393
販売費及び一般管理費	1,623,789	1,907,474
営業利益	916,413	1,254,919
営業外収益		
償却債権取立益	—	1,416
その他	58	1,170
営業外収益合計	58	2,586
営業外費用		
支払利息	510	685
為替差損	1,402	3,048
その他	149	245
営業外費用合計	2,062	3,978
経常利益	914,409	1,253,526
税金等調整前四半期純利益	914,409	1,253,526
法人税、住民税及び事業税	286,133	416,335
法人税等調整額	1,047	△16,245
法人税等合計	287,180	400,090
四半期純利益	627,229	853,436
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	844	△1,937
親会社株主に帰属する四半期純利益	626,384	855,373

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	627,229	853,436
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,182	△1,249
その他の包括利益合計	△2,182	△1,249
四半期包括利益	625,046	852,187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	624,201	854,124
非支配株主に係る四半期包括利益	844	△1,937

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

当社の四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略を適用）に準拠して作成しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結財務諸表計上額
	遊休資産活用事業	ビジュアライゼーション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,834,747	155,707	5,990,454	—	5,990,454
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,834,747	155,707	5,990,454	—	5,990,454
セグメント利益	911,590	4,822	916,413	—	916,413

(注) セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2024年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額 (注) 2
	遊休資産活用事業	ビジュアライゼーション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,421,944	146,376	7,568,321	—	7,568,321
セグメント間の内部売上高又は振替高	11,000	—	11,000	△11,000	—
計	7,432,944	146,376	7,579,321	△11,000	7,568,321
セグメント利益又は損失 (△)	1,268,126	△8,653	1,259,473	△4,554	1,254,919

(注) 1 売上高の調整額はセグメント間取引高の消去額であり、セグメント利益の調整額はセグメント間取引消去に伴う調整額であります。

2 セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年10月1日 至 2023年6月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年10月1日 至 2024年6月30日）
減価償却費	73,510 千円	95,807 千円
のれんの償却額	5,903	5,903

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月9日

株式会社アズーム
取締役会 御中有限責任 あずさ監査法人
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 和充指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 桑本 義孝

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社アズームの2023年10月1日から2024年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年10月1日から2024年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。